

「マスマリン」九州・山口研究発表会

マスマリンの新しい抗菌活性メカニズムと治療への応用を探る

獣医師・薬剤師・医薬品登録販売者 合同大会

Report

平成 24 年 4 月 15 日(日)、九州大学医学部百年講堂にて、第 1 回「マスマリン」九州・山口研究発表会を開催し、約 200 名の方がご来場されました。今回は「マスマリンの学会」として、各専門分野のエキスパートが集い、第一部では「マスマリンの基礎研究の展開」、第二部では「マスマリンの臨床研究の展開」という内容で様々なアプローチからの講演が行なわれました。ご来場者からの質疑も多々あり、非常に盛り上がった発表会となりました。

同発表会の DVD を準備しておりますので、**ご希望の方は、弊社もしくは営業担当までお申し付け下さい。**各講演の概要は次の通りとなりますので、ご参照下さい。



(株) アライアンス
代表取締役社長 美濃部秀雄

開会式～はじめに

私ども(株)アライアンスは①病気を予防する。②未病を治し、QOL を高める。③副作用のない自然食品、漢方薬でかつエビデンスのある商品を開発・提供する。事が役割だと思っています。そのため、私淑しています九州大学医学部(桑野先生)、鹿児島大学農学部(樋口先生)のご指導、アドバイスの下に日本大学獣医学部、産業医科大学医学部、九州大学薬学部、大分大学医学部で基礎研究を行って参りました。

そして、その中から生まれました商品がマスマリンローション・マスマリンシャンプーです。この度の学術大会は、関係機関の先生方のご協力のもとに、この機会に「マスマリン」をよく理解して頂き、自信を持って「来店客の QOL の向上」に役立てて頂ければ嬉しく思います。

第 1 部 「マスマリンの基礎研究の展開」

谷口初美先生 産業医科大学 微生物学教室 教授

『マスマリン、マスティックの抗菌活性および抗マラセチア活性』

薬剤耐性菌の蔓延は、院内感染のみならず、市中においても大きな問題である。市中における薬剤耐性菌の蔓延は、日常生活でヒトと愛玩動物との間の双方向への感染を引き起こす。このような状況の中、従来の抗菌薬とは異なる由来の天然物質の抗菌薬に関心が高まっている。一方、真菌症に対する有効な治療薬は不足している。そこで、今回マスティック由来の抽出成分、及び各種マスティック含有試作品の抗菌(細菌)、及び抗マラセチア(真菌)活性を精査した結果を発表。



宮本智文先生 九州大学大学院薬学研究院 創薬化学部門 医薬化学講座医薬資源探索学分野 准教授

『マスティックの抗菌・抗真菌活性と活性成分』

マスマリンの主成分であるマスティックは MRS A やマラセチアに対する増殖阻害作用があることは認められているが、E BM は確立されておらず、今回、マスティックの抗菌・抗真菌作用の有効成分を明らかにすることとなり、そのためにはマスティックに含有される多数の化学成分の精製、化学構造の解析、純粋にした化学成分を用いた抗菌、抗真菌作用を検討する必要がある。本研究発表会では、マスティックに関する学術的側面、細菌、真菌などの感染症に関わる微生物、そして、現在のマスティックに関する研究状況について発表。



大会に参加してのご感想

今回の学会は非常に画期的なものでした。まず、メインになるものが「薬」ではないこと。要するに「サプリメント」です。これに対して、医学(基礎学・内科学)からのアプローチについて発表がありました。基礎医学は基礎獣医学とほぼ同じで、私が学生時代に行っていた実験と重なる点が多く非常に興味深いものでした。実は一時は臨床ではなくそちらに進むつもりでしたから。基礎レベルの実験の結果、このサプリメントの有効性ははっきりと確認されたことは、薬による「薬剤耐性菌」の発生を回避、やそれに対する有効な治療法になりうるということを示唆します。

そして内科学からは、胃癌の発症に重要な関係性が指摘されている「ピロリ菌」に対する有効性についての発表でした。「ピロリ菌」はなかなか厄介な細菌であり、これの除菌治療が行われているわけですが実際に薬剤を使っている治療についても発表がありました。完全にと言うのは難しいようでここにこのサプリメントが有効だということであれば、非常に画期的なことなわけです。

なぜなら、薬剤耐性菌というのは「抗生物質が効かない」わけですからもはや薬による治療ができない状態なわけで、そこで全く別のモノが有効だとすると薬剤と違い副作用の心配も無く、効果が得られるわけです。研究はまだ始まったばかりで最終段階というわけではありませんので今後の進展に期待したいところです。

[島根県松江市]
岡本動物病院 院長 岡本宏之先生

そして次に歯科医からの発表がありました。研究内容もさることながら発表された歯科医師の方の姿勢が大変共感しました。歯という体の一部を見るのではなく、体全体を見るということ。この方は治療に当たっているということでした。正直なところ、歯科医の業界のことは全くと言っていいほど知りませんでしたがこう言う方がいらっしゃるというのは正直意外でもありました。歯肉炎に対する効果について発表されましたが、個人的に「使ってみよう」と思いました。

最後に獣医からの発表でした。これは私の専門分野ですから、そういう目と耳で発表を聞いていました。実際に当院でもすでに使用しておりますので、内容について驚くようなことはありませんでした。ただ、獣医ってのは柵がない業界ですので、わりと自由にいろいろな例に使ってるな〜と思いました。また、人間に対する効果と動物に対する効果というのが全く違うことには驚きました。人では「効果なし」と思われる事例でも動物では「有効だった」というのは、人間と動物の違いを改めて感じました。これら 3 つの全く異なる業界が一堂に会する学会はおそらくはじめてのことだと思います。今後このサプリメントの効果がどんどん実証され臨床の場で使用されることを切に願います。

最後に感想を・・・医師・歯科医師・獣医師のそれぞれ特徴が、発表の中になんか反映されていたことは結構面白かったです。

第 2 部 「マスマリンの臨床研究の展開」

渡辺秀司先生 医療法人秀真会とつかグリーン歯科医院院長

『歯周病に対する予防薬及び治療薬の開発 マスティックオイル練り歯磨きの有用性について』



歯周病の治療の最大の目的におかれるのは歯周病原細菌の口腔内組織への定着の防止と活動の抑制であり、健康な口腔環境を作る基本である。現状、洗口剤、練り歯磨きの多くは化学物質で構成されており、特に殺菌力強いものが多く、一過性に細菌数の減少を引き起こし、そのため歯周病原細菌と一緒に、他の常在菌までも殺菌してしまう。口腔内の環境は細菌同士の生存競争が微妙な動態バランスで生息し、環境が維持されている。細菌の動態バランスの保持と維持のため、毎日使う口腔ケアの洗口剤、練り歯磨きの効果を期待することが大きい。今回、マスティックが高い抗菌性、組織への親和性、及び副作用を有しないことが示されたので、歯科臨床における、口腔内の予防効果の検証とともに報告。

平川 篤先生 ペットクリニックハレルヤ 総院長

『マスティックの抗菌・抗真菌活性と活性成分』

小動物における真菌症で最も臨床的に遭遇するのはマラセチア性皮膚炎である。今回当院で採取した自然発生したマラセチアに対するマスマリンローションの効果を調査した結果、極めて有効な抗菌活性を示した。そこで臨床の現場で遭遇する爪床マラセチア感染に伴う犬の肢端搔痒症、マラセチア性外耳炎、マラセチア性皮膚炎に対する効果を調査し、その他にマスマリンローションの細菌感染に対する効果として、猫の慢性口内炎、犬の歯肉炎(歯槽膿漏)、犬の皮膚感染症(MRSP)、猫の潰瘍性皮膚炎などの治療成績も紹介。



沖本忠義先生 大分大学医学部附属病院消化器内科 助教

『抗ピロリ菌活性と胃がん予防』

ヘリコバクターピロリ(以下ピロリ菌)は 1983 年に発見されたグラム陰性桿菌で、感染すると、胃炎を惹起し、胃潰瘍、十二指腸潰瘍(消化性潰瘍)や胃 MALT リンパ腫、胃癌などの消化管病変の発症の原因であり、消化性潰瘍の再燃や憎悪にも関与している。ピロリ菌感染に対する除菌療法は 2000 年に一次除菌療法が、2007 年に二次除菌療法がそれぞれ保険適用となっているが、二次除菌不成功者、抗菌薬にアレルギーを示す患者に対する除菌療法はまだ確立していない。そこでマスマリンを用いた抗ピロリ菌作用を培養実験にて確認したところその抗ピロリ菌活性が示され、興味深い結果となった。本講演では、日本におけるピロリ菌の胃癌に関する影響と、地域によるピロリ菌の胃発癌への影響の差、マスマリンの抗ピロリ菌作用の結果などについて発表。



総括

桑野信彦先生 九州大学 名誉教授 『大会総括と今後の展望』



今回の大会は“マスマリンに関する見事な学会”で、専門分野の研究者が集い、基礎と臨床の研究が融合したインパクトのある学会であった。基礎研究の展開では、マスマリンが示す細菌や真菌(カビ)に対する抗菌活性と含まれる有効成分の化学構造決定が谷口先生と宮本先生から発表され、臨床研究の展開では、渡辺先生、平川先生から、それぞれ、口腔内、動物での治療効果について、沖本先生から、H・Pylori に対する抗菌作用についての発表を頂いた。今回の 5 つの発表はすごいと思うと同時に、色々な疑問を我々に投げかけている、今回の発表はそういうものの紐解きの最初だと思われた。動物への治療にも加えてヒトへの応用も考えながら、きちんとした基礎研究と臨床研究の各々の専門分野の更なる研究が必要だと思われた。今回の研究成果はマスマリンが魅力のある治療効果を期待させる内容であった。マスマリンに関して我々は自然の恵みからヒト、動物に役立つ創薬を展開する、これからの仕事の継続が大切であると思われた。

[鹿児島県鹿児島市]
漢方のオーリーブ堂 武 柳子先生

今回の『マスマリン大会』に参加させていただいて、率直な感想として『マスマリン』というサプリメントには驚かされることばかりでした。九州大学、産業医科大学の先生方から、マスマリンの基礎実験、臨床実験で、抗真菌作用、抗菌作用があることが実証されているという発表があり、特にマラセチア(真菌)に対しては、抜群の効果があるということに、非常に驚きました。

マスマリンの成分で、日本ではまだ馴染みの薄い『マスティック』というものが、ヨーロッパでは古くから病気の予防や治療に使われてきたということを知ったことはありますが、ここまでの効果を見つけたされた情熱とか執念とか、「正直すごいなー」と思いました。それとマスティックにサメ肝油と合わせたという発想にもビックリ!

また昨今、院内感染等で大きな問題となっている MRS A 等の耐性菌に対しても効果があるとの発表もあり、これからの更なるマスマリン研究に期待したいと思います。また、マスマリンを使用した臨床症例(動物中心でしたが)を拝見しましたが、もっともっと臨床症例を増やしてもらって、さまざまな治療や病気の予防に使用出来ればと思います。副作用の心配もなく、ヨーロッパではすでに薬として認知されているとのことなので、安心してお客様に『マスマリン』を勧めていくことを実感出来ました。最後に・・・第 2 回の『マスマリン大会』期待しています。